

2 第1次札幌市生涯歯科口腔保健推進計画の評価

重点施策 1 かかりつけ歯科医をもつ人を増やします

評価指標		現状値	目標値	最終評価
1-1	かかりつけ歯科医のいる1歳6か月児の割合	32.0% (H28)	45.0%	30.8%
1-2	かかりつけ歯科医のいる3歳児の割合	65.9% (H28)	75.0%	70.2%
1-3	定期的に歯科健診を受ける人の割合(18歳以上)	19.2% (H26)	30.0%	39.7%

1-1 かかりつけ歯科医のいる1歳6か月児の割合

1-2 かかりつけ歯科医のいる3歳児の割合

計画開始時より、概ね上昇する傾向にありましたが、令和2～3年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えと思われる受診率の低下もしくは伸び率の鈍化がみられ、目標値の到達には至りませんでした。

今後もかかりつけ歯科医における定期的な歯科健診やフッ化物塗布の普及を図るため、引き続き、かかりつけ歯科医の普及に努めていく必要があります。

1-3 定期的に歯科健診を受ける人の割合(18歳以上)

計画策定時の19.2%から令和4年度は39.7%と大幅に改善し、目標値を上回りました。しかし、厚生労働省が実施した平成28(2016)年度の国民健康・栄養調査では「過去1年間に歯科検診を受けた者」は52.9%であり、全国値に比べると依然としてかなり低い状態にあることから、さらなる改善を目指していく必要があります。

重点施策 2 むし歯や歯肉炎のない子どもを増やします

評価指標		現状値	目標値	最終評価
2-1	むし歯のない3歳児の割合	83.3% (H26)	90.0%	91.6%
2-2	むし歯のない12歳児の割合	54.5% (H27)	65.0%	65.9%
2-3	むし歯になるおそれのある1歳6か月児(O ₂ 型)の割合	32.9% (H26)	20.0%	29.5%
2-4	歯肉炎のある12歳児の割合	2.6% (H27)	2.0%	2.3%

2-1 むし歯のない3歳児の割合

2-3 むし歯になるおそれのある1歳6か月児(O₂型)の割合

むし歯のない3歳児の割合については、増加傾向にあり、目標値90.0%を上回りました。また、全国平均と比べても、上回って推移しています。

一方で、多数のむし歯を有する者が一定数認められる状況であり、健康格差の縮小の取組が必要と考えられます。

むし歯になるおそれのある1歳6か月児(O₂型)の割合については、目標値を上回っている状況ではありますが、健康格差の縮小に向けて、引き続き乳幼児に対する歯科保健指導の充実に取り組んでいく必要があります。

2-2 むし歯のない12歳児の割合

2-4 歯肉炎のある12歳児の割合

むし歯のない12歳児の割合については、増加傾向にあり、目標値65.0%を上回ったものの、全国平均(令和3年71.7%)を下回る状況は続いており、さらなる改善を図る必要があります。

歯肉炎のある12歳児の割合については、ほぼ横ばいとなっており、学齢期における歯科保健指導の充実に引き続き取り組んでいく必要があります。

基本施策 1 むし歯や歯周病のある人を減らします

評価指標		現状値	目標値	最終評価
3-1	妊婦歯科健診の受診率	4.3% (H26)	8.0%	5.4%
3-2	40歳で歯周炎を有する人の割合	48.5% (H27)	37.0%	44.0%
3-3	50歳で歯周炎を有する人の割合	53.5% (H27)	45.0%	53.1%
3-4	60歳で歯周炎を有する人の割合	55.4% (H27)	45.0%	60.8%
3-5	60歳で24本以上歯を有する人の割合	79.7% (H27)	90.0%	86.3%
3-6	さっぽろ市歯周病検診の受診率	1.9% (H27)	10.0%	2.9%

3-1 妊婦歯科健診の受診率

妊婦歯科健診については、受診率は若干増加しているものの、目標値は下回っており、引き続き受診率の増加に向けて啓発等に取り組む必要があります。

3-2 40歳で歯周炎を有する人の割合

3-3 50歳で歯周炎を有する人の割合

3-4 60歳で歯周炎を有する人の割合

歯周炎を有する人の割合については、40歳では改善の傾向が続いているものの、50歳についてはほぼ横ばい、60歳については、むしろ悪化している状況となっています。60歳については、歯の本数の増加による影響とも考えられますが、今後も、引き続き歯周疾患の改善に向けて取り組む必要があります。

3-5 60歳で24本以上の歯を有する人の割合

60歳で24本以上の歯を有する人の割合については、目標値90.0%には及ばなかったものの、目標値に近い86.3%までは改善されました。引き続き目標値達成に向けて取り組む必要があります。

3-6 さっぽろ市歯周病検診の受診率

さっぽろ市歯周病検診は平成27年度の途中より対象者へ個別の案内送付を開始し、一定の受診率増加が図られましたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症による受診控えと思われる受診率の低下もあり、その後回復しきっていない状況となっています。引き続き受診率の向上に向けて取り組む必要があります。

基本施策 2 高齢になっても自分の歯を有し、食べる力が良好な人を増やします

評価指標		現状値	目標値	最終評価
4-1	自分の歯を 20 本以上有する 70 歳以上の人の割合	39.7% (H26)	50.0%	43.6%
4-2	口腔がんを自分で発見できることを知っている人の割合 (60 歳以上)	33.6% (H27)	50.0%	31.0%
4-3	70 歳代で咀嚼が良好な人 (咀嚼良好者) の割合	—	75.0%	63.6%
4-4	70 歳代で飲み込む機能が良好な人の割合	—	85.0%	73.4%

4-1 自分の歯を 20 本以上有する 70 歳以上の人の割合

自分の歯を 20 本以上有する 70 歳以上の人の割合については、目標値 50% を下回っています。歯の本数をアンケートにより回答する方法であるため、歯科健診に比べて正確性は劣りますが、国の目標値である 80 歳で 20 本以上の歯がある者の割合は既に 50% を上回っており、今後も高齢者の歯の本数の増加に向けて取り組む必要があります。また、今後、歯の本数の評価をより適切に行うために、これまでのアンケートによる回答ではなく、実際の歯科健診で得られる実測値を用いることとします。

4-2 口腔がんを自分で発見できることを知っている人の割合 (60 歳以上)

口腔がんを自分で発見できる人の割合については、約 3 割程度の横ばいでの推移となっており目標値には至りませんでした。

4-3 70 歳代で咀嚼が良好な人 (咀嚼良好者) の割合

4-4 70 歳代で飲み込む機能が良好な人の割合

70 歳代の咀嚼良好者の割合、飲み込む機能が良好な人の割合については、いずれも目標値を 10.0% 程度下回っており、今後、オーラルフレイル対策の充実等に取り組む必要があります。